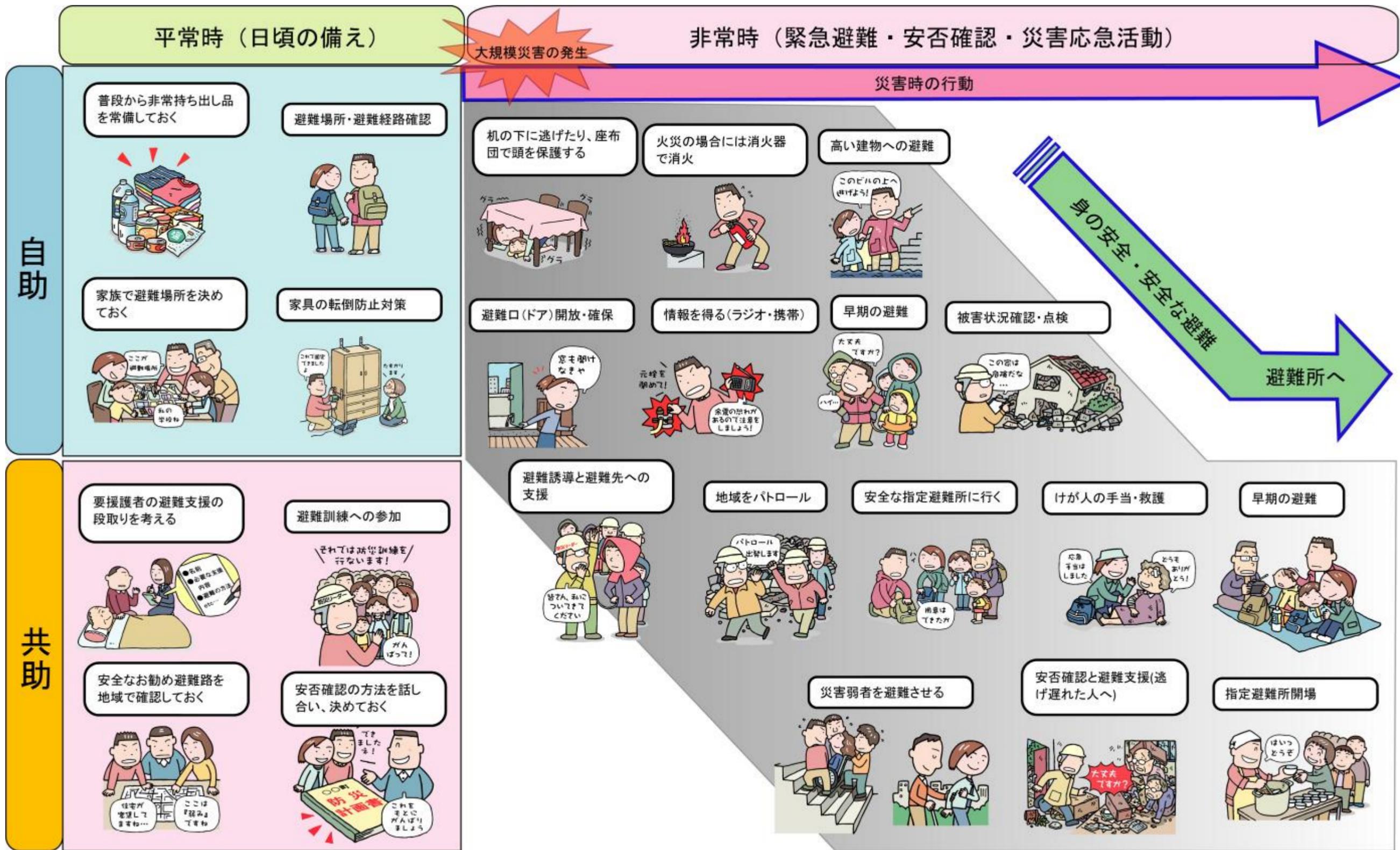


5.具体的な防災・減災対策



住民の防災講演会やワークショップへの参加により、地域での防災・減災への取組みとして、発災前・発災時等と、自助(自分・家族での取組み)・共助(地域での連携の取組み)に区分して整理した。

■水 害

【自 助 発災前】

- 避難確認
 - 避難場所・避難経路の確認
 - とにかく、高い場所・建物の把握
 - 浸水時の避難先をあらかじめ想定しておく
 - 水害時の自宅の浸水の恐れを確認しておく
 - 浸水に対する認識
 - 避難先の想定

- 連絡・話し合い
 - 家族で避難先を決めておく
 - 浸水時の避難先と普段から仲良くしておく
 - 避難場所・連絡先の家族での話し合い
 - 家族の連絡方法を確認
 - 連絡先を明確にする

- 非常用品
 - 備蓄をあてにせず、個人で準備 「自助が第一」
 - 貴重品は水濡れしないように、袋に入れておく
 - 非常袋を必ず準備
 - スニーカーを準備(サンダルは不可)
 - 火を使わなくても食べられる非常食品を準備
 - 避難用品の確認・確保
 - 3日分の食料備蓄
 - 避難袋の持ち出し

【自 助 発災後】

- 避難行動
 - 早めの避難(浸水前に)
 - 高い建物への早急な避難
 - 浸水していない避難路を
 - 安全な避難先へ
 - あわてず落ち着いて避難
 - 高い建物への避難
 - 早期の避難

- 安全確認
 - 情報を得る（ラジオ・携帯）
 - 避難終了後は、安否情報を連絡
 - 玄関先に避難先の表示をする
 - 電気（ブレーカー）を切る
 - 電気・ガス等のスイッチ確認
 - 安全な避難路の確保
 - 安否情報を連絡

- 【共 助 発災前】
- 避難体制
 - 地区での支援分担で行動
 - 要援護者の避難支援の段取りを考える
 - 地域の名簿作成
 - 連絡網の徹底

- 避難計画
 - 安全なお勧め避難路を地域で確認しておく
 - 高いマンション、避難先への事前依頼
 - 地域単位で安全な避難空間を検討して協力する
 - 地域外の避難場所の調整

- 要援護者対策
 - 災害時要援護者の把握
 - 災害時要援護者の避難方法を考えて決めておく

- 安否確認
 - 日頃の周囲の排水路の点検
- 安全確認
 - 避難通路の確保

- 周知・意識向上
 - 近隣の住民避難広報
 - 非常時の避難場所を地域の人に伝える
 - 災害情報の提供（区役所、無線）
 - 避難情報を日頃から徹底
 - 避難箇所建物の事前了解を得ておく

- 防災資機材等
 - 薬・消毒薬の準備
- 避難訓練
 - 非常用ロープの準備
 - 避難訓練の実施
 - 日頃の防災訓練の参加

【共 助 発災後】

- 避難誘導
 - 指定避難所開場
 - 助け合い・声掛け合う
 - 避難場所の設置
 - 避難場所への避難指示を行う
 - 団体で行動する
 - 避難場所に対策本部設置
 - メンバーの支援隊の編成

- 災害情報
- 安否情報
 - 安否確認と避難支援(逃げ遅れた人へ)
 - 気象情報,避難情報、災害情報の周知(避難所が危険かどうか)
 - 名簿で安否確認をする
 - けが人等の確認
 - 地域住民に水害情報をリアルタイムに知らせる

- 救援・支援
- その他
 - 迅速な対応(救護・消火)
 - 消毒・衛生管理
 - 水の確保
 - 要援護者の救援
 - 冠水箇所注意
 - 水害の後片づけ

■地 震

【自 助 発災前】

- 避難方針
 - 地震時の自宅の予想震度を確認しておく
 - 避難経路を決めておく
 - 避難場所・避難経路確認
 - 地震時の自宅の予想震度を確認しておく
 - 家の中で一番安全な場所を確認

- 連絡・話し合い
 - 家族で避難場所を決めておく
 - 地震時の避難先を家族と決めておく
 - 家族同士の情報確認方法の検討
 - 家族が離ればなれになった時の連絡方法と会う場所の確認

- 非常用品
 - 普段から非常持ち出し品を常備しておく

バール・ロープの準備
履き物スニーカーを準備
防災頭巾・ヘルメットを準備する
手袋・軍手等の準備
普段から非常持ち出し品を常備しておく
避難用品の確認・確保
飲料水、保存食の用意
ラジオ・懐中電灯の準備
常備薬の準備
季節ごとに非常袋見直し
非常袋の中：小銭、保険証番号、タオル、雨具、ペットボトル1本

○対策・点検

家具の固定
寝室に高い家具を置かない
家具の転倒防止対策
避難時のガス・電気関係処置方法の確認

【自 助 発災後】

○避難行動

避難口（ドア）開放・確保
公園等の広い場所に移動
障害物の少ない避難路を
早めの避難（建物が危険な場合）
安全な指定避難所に行く
避難終了後は、安否情報を連絡
安全な避難路で行く
揺れがおさまったら、火の元を消す
避難用品の持ち出し
机の下に逃げたり、座布団で頭を保護する

○安否確認

火災に注意

○状況確認

避難終了後は、安否情報を連絡
ブレーカーを切る
玄関に避難先を表示
災害情報の収集

伝言板への情報入力
テレビ・ラジオで情報確認
ブロック塀の転倒に注意
火災の場合には消火器で消火
電話が殺到している場合には伝言ダイヤル（171）を
活用する

【共 助 発災前】

- 避難体制
要援護者の避難支援の段取りを考える
避難困難者の把握
安否確認の方法を話し合い、決めておく
中学生の活用（搬送等）を考える
- 避難計画
安全なお勧め避難路を地域で確認しておく
地域単位で安全な一時避難地を検討し周知する
車椅子の通行可能性などをみておく
地域単位で安全な一時避難地を検討し周知する
- 要援護者対策
高齢者の把握
名簿の準備（町会長と会長以外の人で複数管理）
高齢者・障害者をどのように避難させるかを話し合っ
て決めておく
要援護者の避難支援の段取りを考える
高齢者・障害者の実態調査
寝たきり者の搬送方法
車椅子の通行可能性
歩行困難者の車椅子を用意する
高齢者の避難をどうする
- 周 知
地域の人への啓蒙（地震時はどうしたらよいかを伝え
ておく）
町会未加入者の要援護者の把握
町会員以外の人への周知方法
避難場所・指定場所の確認方法
各町会の会合でみんなに説明する（決定後に）

避難訓練への参加
まちの危険箇所情報
避難路マップ

【共 助 発災後】

- 避難誘導
指定避難所開場
安否確認と避難支援(逃げ遅れた人へ)
避難誘導と避難先への支援
地域をパトロール
安否確認と避難支援(逃げ遅れた人へ)
避難誘導と避難先への支援
地震時には、大きさに関係なく広場に避難する
災害弱者を避難させる

- 安否確認
被害状況確認・点検
- 情報確認等
避難・危険情報、災害情報の周知
情報を集める
安否確認
避難・危険情報、災害情報の周知
安否確認と避難支援

- 救護・支援
火災発生を防ぐ
けが人の手当・救護

6.今後の課題

今後は、資料、検討、提案を積み重ねて、防災計画の内容を充実させていく必要があり、今後の課題には、以下のものがあげられる。

① 地域現況の詳細把握

地域の現況把握は、水害・地震災害に関わる基本的な事項を中心に行った。また、災害時要援護者の所在等はふれずに、防災課題を整理してきた。

このため、今後は、町内の視点で防災・減災の関わる様々な事項を把握し、防災マップ等に記載するなど、充実化が望まれる。

② 災害時要援護者対策等のテーマ別取組内容の詳細検討

今年度の取組では、防災マップと防災・減災対策の基本的事項を主体的に取り組んできた。このため、一定の配慮が必要な災害時要援護者に関する現況把握等には至らなかったが、今後はさらに、災害時要援護者に対する支援などの具体的な取組みを具体化していくことが望まれる。

③ 防災マップの更新・充実

今年度の防災マップには、水害・地震時の避難の基本方向等の最重要課題の骨子となる事項について表示するに留まっている。今年度の防災マップが熟度の高い完成品であるという認識には立っていない。今後は、東淀川区で作成された防災手帳に掲載されている防災マップの内容を加えて、また、地域の現況をつぶさに調査してその内容を加えるなど、より有用な防災マップに仕上げていく必要がある。

特に、避難候補中高層建物については、あくまで、候補となる建物を図上に示しているが、今後は、建物管理者や所有者等と住民の垂直避難先としての合意形成が必要であり、これらの調整が必要である。

④ 防災訓練と地域防災計画の連動

今回の防災・減災の取組みは、防災マップの作成と自助・共助別の、発災前・発災時の取組みの基本的事項を主体に行ったものであり、今後は、さらに地域で実施される防災訓練や、各地区での避難支援体制、安否確認など分野別の取組みなどと連携を図る必要がある。

⑤ 住民・行政・団体・企業等との情報の共有化

防災をとりまく各種団体等と住民との情報の共有化を図り、関係者が同じ基盤・土俵で一体的に防災・減災に取り組む必要がある。